

る いつも方法論化を意識する

まちづくりプランナーには結構、個性的な人がいるような気がする。まあ、私がそういう人と出会うことが多いことなのかもしれないが。個性的なというのは、性格が個性的というのではなくまちづくりへのアプローチの仕方が独特という意味だ。この人だからこそ、こんな成果が出せるのだなと思わせるものがある。私は、というところでもない。いや、そんなことはないという声も聞こえそうだが、それでもないように心がけているのでそういうことにしたい。

その人にしかできない技を身につけることは、まちづくりプランナーだけでなくその道のプロとしては重要であることは間違いない。ただ、その人しかできないとなると、数多あるまちやその抱える課題に対処できない。現役で活躍できる年数を四、五十年とする。一箇所三年は関わり続けたいので、そうなると一人の人が関われるまちの数はおのずと限られてくる。その人にしかできない技を、より多くの人が使える技にしていかなければいけないと思うのだ。

そのためには、技を構成する要素とそれを効果的に作用させるためのポイントを明確にしていくなきゃならない。それが技の「方法論化」である。技の方法論化はあまり複雑であっては使いこなせない。できるだけシンプルになるように要素を重要なものに限定し、ポイントも抽象的ではなく具体的にできるようにしなければならぬ。その人にしかできない技をそんなに単純化できるのかと思ってしまうかもしれないが、やってみると意外にできるものだ。

まずは、自分の経験を振り返って「方法論化」を試みると良い。そうするとなんとなく経験的にうまくいったことも、客観的になぜうまくいくのかが分かってくる。そうなると、さらに効果がでるように研ぎ澄ますことも可能になる。そして、何より事務所としての集団的技術力が向上し、強いチームをつくることができる。さらに、その人にしかできない技をその人だけの宝物としてしまっておくのではなく、誰もが（場合によっては住民が）使える技とすることで、社会全体が良い方向に向かうのならばこれほど嬉しいことはない。